

社会連携センター
CENTER FOR COMMUNITY RELATIONS

ANNUAL REPORT 2017



平成**30**年**3**月
国立大学法人 電気通信大学

Annual Report 2017 目次

ご挨拶	2
社会連携関連カレンダー	3
1. 青少年の育成	
○ 調布少年少女発明クラブ／電通大子ども工作教室	6
○ ながれと遊ぼうコンテスト	8
○ 中学生職場体験受け入れ事業	10
○ おもちやの病院	11
2. 習得・知得	
○ 公開講座	13
○ サイエンスカフェ Chofu	16
○ 調布市国際交流協会日本語ボランティア講座	21
○ 三鷹ネットワーク大学との連携	22
3. 協働活動	
○ キャンパス美化活動	25
○ 花植え活動	26
4. ボランティア活動支援	
○ 活動支援事業	29
○ ボランティア依頼リスト	31
5. トピックス	
○ 調布特別支援学校との連携	35
○ 渋谷区教育委員会との連携	39
○ 調布市・東京都教育関連セクターとの連携・協力	44
○ 調布市共催「中学生のための大学一日体験入学」	49

ご挨拶

社会連携センターは、平成 26 年度から社会連携企画室・地域学習推進室・青少年科学教育推進室・ボランティア推進室の 4 室体制を組んで、様々な社会連携活動を行っています。

社会連携企画室（水戸室長）では、本学の持つ ICT 技術を活用して地域の安心・安全向上に貢献しています。平成 21 年から都立特別支援学校との連携を深め、数多くの啓発活動や ICT 教材作成支援を行って参りました。また、自治体との連携のもとに東京オリンピック・パラリンピックへの貢献を検討しております。これからも地域社会への窓口として、様々な社会連携活動についてのご提案をお待ちしています。

地域学習推進室（宮寄室長兼任）では、公開講座や三鷹ネットワーク大学、そしていなぎ IC カレッジなどの生涯学習への協力を推進しています。平成 27 年度からは調布市生涯学習推進課による新たな企画「中学生の大学体験入学」にも協力しています。また、平成 29 年度から、調布市や目黒会との共催で「サイエンスカフェ chofu」を始めました。気楽に科学に親しむ場となることを目指しております。

青少年科学教育推進室（奥野室長）では、発明クラブや工作教室をはじめとして、調布市や渋谷区の初中等教育への支援やおもちゃの病院などの活動を続けています。平成 27 年度には、発明クラブが設立 10 周年を迎え、その記念事業を行いました。発明クラブは全国に 215 件ございますが、大学が実施するのは唯一であり、その活動が注目を集めました。また、目黒会からの支援を受けて、渋谷区こども科学センター・ハチラボとの連携をさらに深めています。平成 29 年度から、小学生（夏休み）と小学校教員（冬休み）へのプログラミング実習を始め、ご好評をいただきました。

ボランティア推進室(佐々木室長)では、学生ボランティア登録システムを用いてボランティア活動を支援し、その活性化を促しています。平成 27 年度以降、調布市社会福祉協議会の中学生学習支援事業への学生ボランティア協力を行っています。また、プログラム学習への支援要請が増加しており、近隣の高等学校へボランティア学生を派遣しています。

自然環境も国内外の政治経済情勢も不確定で予測が難しい中で、私たちは様々な選択しなければなりません。そのための知恵を育み、永く持続可能な社会の実現することを目指して、地域社会と本学とのコミュニケーションをより密接にしていければと思います。

平成 30 年 3 月

社会連携センター長
機械知能システム学専攻 教授 宮寄 武

2017年度 社会連携活動カレンダー

※公開講座の「地域産業振興講座」以外は、本文で取り上げている項目です。

月日	社会連携活動(主に理科分野)	公開講座	関連事項
4月	8 土	●調布少年少女発明クラブ「開講式」	
	15 土		●おもちゃの病院
	22 土	●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「プロペラ飛行機の制作」	
5月	13 土	●調布少年少女発明クラブ「ステアリングカーの製作 その1」	
	20 土	●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「万華鏡の制作」	●おもちゃの病院
	24 水	●地域産業振興講座	
6月	4 土		●第5回 女性のための起業講座
	8 木		●ジャグリング入門～頭を鍛える軽運動、やり方と楽しみ方(1)
	10 土	●調布少年少女発明クラブ「ステアリングカーの製作 その2」	
	14 水	●地域産業振興講座	
	15 木		●ジャグリング入門～頭を鍛える軽運動、やり方と楽しみ方(2)
	17 土		
	21 水	●地域産業振興講座	
	22 木		●ジャグリング入門～頭を鍛える軽運動、やり方と楽しみ方(3) ●日本語ボランティア入門講座(第1回)
	24 土	●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「ヘロンの噴水の制作」	
29 木		●日本語ボランティア入門講座(第2回)	
7月	4 火	●地域産業振興講座	
	5 水	●地域産業振興講座	
	6 木		●日本語ボランティア入門講座(第3回)
	8 土	●調布少年少女発明クラブ「ステアリングカーの製作 その3」	
	13 木		●日本語ボランティア入門講座(第4回)
	15 土		●おもちゃの病院
	20 木		●日本語ボランティア入門講座(第5回)
	22 土	●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「ペットボトルロケットの制作」	
27 木		●日本語ボランティア入門講座(第6回)	
8月	1 火		●子供と学ぶ科学実験講座 ～香り成分を取り出してみよう!～
	3 木		●日本語ボランティア入門講座(第7回)
	5 土	●地域産業振興講座	
	9 水		●子供と学ぶ科学実験講座 ～香り成分を取り出してみよう!～
	17 木		●日本語ボランティア入門講座(第8回)
	19 土		●おもちゃの病院
	23 水		●夏休み子どもプログラミング・ワークショップ ～chibi:bitでかんたんプログラミング～
	24 木		●日本語ボランティア養成講座(第9回)
	26 土	●調布少年少女発明クラブ「ステアリングカーの製作 その4」	
31 木		●日本語ボランティア入門講座(第10回)	
9月	7 木		●日本語ボランティア入門講座(第11回)
	9 土	●調布少年少女発明クラブ「光オルゴール(1)」	
	14 木		●日本語ボランティア入門講座(第12回)
	16 土		●おもちゃの病院
	20 水	●地域産業振興講座	
	23 土	●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「ゲルマニウムラジオの制作」	
30 金		●ハイデガー『存在と時間』を読む(第1回)	

2017年度 社会連携活動カレンダー

※公開講座の「地域産業振興講座」以外は、本文で取り上げている項目です。

月日	社会連携活動(主に理科分野)	公開講座	関連事項	
10月	7 土		●第19回 調布身の丈起業講座	
	14 土	●調布少年少女発明クラブ 「光オルゴール(2)」	●ボランティア養成講座「第12回 そ時あなたは どうする?ゲームで考える「究極の決断」~ 防災カードゲーム「クロスロード」体験 とディスカッション」~	
	20 水		●地域産業振興講座	
	21 土		●理系の古文書講座(第1回)	●おもちゃの病院
	28 土	●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室 「ヘリコプターの制作」	●ハイデガー『存在と時間』を読む(第2回)	
11月	4 土		●ハイデガー『存在と時間』を読む(第3回)	
	11 土	●調布少年少女発明クラブ 「光オルゴール(3)」	●理系の古文書講座(第2回)	
	15 水		●地域産業振興講座	
	18 土			●おもちゃの病院
	25 土	●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室 「紙飛行機の制作~流れと遊ぼうコンテスト」		
12月	1 水		●地域産業振興講座	
	2 土	●調布少年少女発明クラブ 「光オルゴール(4)」	●ハイデガー『存在と時間』を読む(第4回)	
	9 土	●調布少年少女発明クラブ 「光オルゴール(5)」	●理系の古文書講座(第3回)	
	16 土	●調布少年少女発明クラブ 「光オルゴール(6)」		●おもちゃの病院
	26 火		●子供に教えるプログラミング教室	
1月	13 土	●調布少年少女発明クラブ 「光オルゴール発表会」		
	17 水		●地域産業振興講座	
	20 土		●ハイデガー『存在と時間』を読む(第5回)	●おもちゃの病院
	27 土		●理系の古文書講座(第4回)	
2月	3 土	●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室 「静電気と遊ぼう」	●第20回 調布身の丈起業講座	
	10 土		●ハイデガー『存在と時間』を読む(第6回)	
	17 土		●理系の古文書講座(第5回)	●おもちゃの病院
	21 水		●地域産業振興講座	
3月	3 土	●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室 「エア・クッション・ビークルの制作」	●ハイデガー『存在と時間』を読む(第7回)	
	7 水		●地域産業振興講座	
	17 土			●おもちゃの病院
	24 土	●調布少年少女発明クラブ「修了式」		
	28 水		●脳科学ライフサポート研究センタース プリングスクール	
29 木				

● 青少年の育成

1. 調布市少年少女発明クラブ

/電通大子ども工作教室

2. ながれと遊ぼうコンテスト

3. 中学生職場体験受け入れ事業

4. おもちゃの病院

調布少年少女発明クラブ（電通大こども発明クラブ）

および

電通大子ども工作教室

「調布少年少女発明クラブ」は、公益社団法人 発明協会が事業として設置する少年少女発明クラブとして、一般社団法人 目黒会（本学同窓会）とともに本学が実施しています。その前身は、電通大創立 80 周年記念事業のひとつとして平成 13 年 11 月にはじまった電通大子ども工作教室です。そして発明クラブは平成 16 年 10 月に開設し、毎年定員の 10 倍近くの応募をいただきながら平成 30 年 12 月 8 日の電通大 100 周年を迎えようとしています。

平成 29 年度の発明クラブは、全 22 回の本科の小学生 45 名と、そのうち 9 回では工作教室として毎回募集する 20 名が加わり活動を行いました (<http://www.ccr.uec.ac.jp/activity/club/index.html>)。UEC ミュージアムの見学も 1 回含んでいます。また 2 年目以上の特別研究生は、各自の希望したコースで 42 名が活動しました。発明工夫コースでは、第 19 回全国ジュニア発明展で入選したり（全 9693 点中の 211 点）、第 8 回全国少年少女チャレンジ創造コンテストで全国大会の決勝 20 チームに残ったり（全国 78 地区事務局から選ばれた約 150 チームから）と、外部にも出て活躍してくれました。

本事業に関わる費用について、指導員の先生方（シニアの目黒会会員、社会連携センター地域活動連携推進員）が精微な積算を行ってくださいました。年会費としては子どもが持ち帰る工作物の材料代実費相当が適当であろうと考え、それまでの 4 千円から 1 万円に変更いたしました。応募状況にかわりはなく、社会から強く望まれている活動であることをあらためて実感しています。そして、今年度もいくつか取材をしていただきました（5 月 13 日：英国放送協会 BBC、7 月 16 日：調布 FM および調布市民放送局、7 月 22 日：朝日新聞・8 月 3 日付け朝刊 25 面）。企画運営委員会で支援くださっている調布市商工会が市役所前で開く第 62 回調布市商工まつりで出前工作教室を出展（10 月 8 日）したのも 3 年目になります。その他近隣の PTA などから依頼されて出かけた講座は、今年度も 10 回にのぼりました。引き続き調布近隣の小学生年代からの科学振興に貢献していきたいと考えております。

表 1 平成 29 年度の活動回数と人数

	年間活動回数	人数	
発明クラブ	22 回	45 人	1 年目
および工作教室	うち 9 回	追加で 20 人	
特研マイコン 1A ライントレーサ	19 回	21 人	2 年目
特研マイコン 2A 上級	19 回	10 人	3 年目以上
発明工夫	21 回	3 人	2,3 年目
鉄道模型	18 回	8 人	2 年目以上

2017年度 発明クラブ/工作教室 活動報告(第13期)

当期回数	通算回数	日付	形態	内容
1	277	2017/4/8 土	発明クラブ	発明クラブ開講式
2	278	2017/4/22 土	工作教室/発明クラブ合同	プロペラ飛行機を作って飛ばそう
3	279	2017/5/13 土	発明クラブ	ステアリングカーを作ろう その1
4	280	2017/5/20 土	工作教室/発明クラブ合同	立体型回転万華鏡を作ろう
5	281	2017/6/10 土	発明クラブ	ステアリングカーを作るために はんだ付け、カッターナイフ等の道具の使い方
6	282	2017/6/24 土	工作教室/発明クラブ合同	ヘロンの噴水
7	283	2017/7/8 土	発明クラブ	ステアリングカーを作ろう その2
8	284	2017/7/22 土	工作教室/発明クラブ合同	ペットボトルロケットを作って飛ばそう
9	285	2017/8/26 土	発明クラブ	ステアリングカーを作ろう その3 および 走行競技会
10	286	2017/9/9 土	発明クラブ	ステアリングカー その4 自走車に改造 および ふくろのねずみゲーム
11	287	2017/9/23 土	工作教室/発明クラブ合同	電池いらずのラジオ作り 高感度ループアンテナで受信する
12	288	2017/10/14 土	発明クラブ	光オルゴールの製作 その1
13	289	2017/10/28 土	工作教室/発明クラブ合同	ヘリコプターの製作
14	290	2017/11/11 土	発明クラブ	光オルゴールの製作 その2
15	291	2017/11/25 土	日本流体力学会/工作教室/ 発明クラブ合同	ながれと遊ぼうコンテスト
16	292	2017/12/2 土	発明クラブ	光オルゴールの製作 その3
17	293	2017/12/9 土	発明クラブ	光オルゴールの製作 その4
18	294	2017/12/16 土	発明クラブ	光オルゴールの製作 その5 UEGミュージアムの見学
19	295	2018/1/20 土	発明クラブ	光オルゴールの製作 演奏発表会
20	296	2018/2/3 土	工作教室/発明クラブ合同	静電気と遊ぼう
21	297	2018/3/3 土	工作教室/発明クラブ合同	エアクション艇を作る
22	298	2018/3/24 土	発明クラブ	修了式

extra	2017/7/16 日	出前講座 電通大ホームカミングデー	10-16時 エアーロケット、ストローヘリ など 30人
extra	2017/7/27 木	出前講座 町田市和光鶴川小学校学童クラブ	1330-1500 ヘロンの噴水
extra	2017/7/30 日	出前講座 調布市教育委員会「遊ing」事業	10-12時 電通大にて 小2から中3 15人
extra	2017/8/3 木	出前講座 調布市立若葉小学校	10:00-12:30 61人 1-3年と3-5年を2教室で ゴム動力飛行機
extra	2017/10/8 日	出前 調布市商工まつり	10-15時 虹の万華鏡、雨上がり、簡単モーター。39人が体験。写真右3枚
extra	2017/10/9 月祝	出前講座 府中第六小学童	9:45-12:00 32人 エアーロケット。体育館 で工作と飛距離比べ
extra	2017/11/1 水	出前講座 中央区立明正小学校	15:30-16:30 低学年ストローヘリ41人 高学年 簡単モーター27人 保護者39人
extra	2017/11/24金25 土26日	電通大調布祭出前工作教室	エアーロケット、ストローヘリ、雨上がり、特 研生リモコンカー説明展示、など。写真下2 枚
extra	2018/2/18 日	出前講座 新宿区立落合第一小学校PTA	13:00-15:00 作って飛ばそう!! エアーロ ケット 40人
extra	2018/2/28 水	出前講座 調布市富士見児童館	15:15-16:45 エアーロケットの製作 20人

ながれと遊ぼうコンテスト 2017

宮崎 武*

平成 29 年 11 月 25 日（土）に「ながれと遊ぼうコンテスト 2017」を開催いたしました。紙飛行機を工作して飛行性能を競う「紙飛行機大会」に加えて飛行機が何故飛べるのかをデモ実験を通してわかりやすく解説するという啓発イベントですが、小中学生を対象として、10 数年続いています。社団法人発明協会と日本流体力学会との共催の形をとり、発明クラブで年間を通して活動をしている子供が 31 名、当日参加の工作教室の子供が 21 名、合計 52 名の小学生（男子 39 名、女子 13 名）の参加がありました。開催日が学園祭最中でしたので、コンテストでは人力飛行機サークル「U.E.C. wings」のメンバーにも協力してもらいました。

午前 10 時に電気通信大学創立 80 周年記念会館の三階フォーラムに集まった参加者には、「2017 年型紙飛行機キット」が配られました。ここ数年は基本設計を変えず、バルサを切り出した木製胴体、主翼などのパーツをあらかじめ印刷したケント紙、そして紙飛行機を飛ばすために使う、割り箸とゴムで作った発射装置のセットです。澤田拓名人*1の機体設計で、軽量で飛行性能は高いのですが、胴体のバルサが細く、折れやすい欠点がありました。そこで、今年は胴体部にケント紙を広めに貼って強度を補強するとともに、機体先端にスズ板を貼って重心位置を調整しました。また昨年と同様にコンテスト中には修復を即座に行う学生ボランティアを配置し、破損してもコンテストを続けられるように配慮しました。

澤田名人から工作手順を教わりつつ（図 1）、子供たちはケント紙から翼を切りだし、接着剤で胴体の



図 1 澤田名人による工作手順の説明

バルサに固定していきます。上反角やキャンバーの付け方など、紙飛行機ならではの細かい作業もありましたが、名人や学生ボランティアに手伝ってもらいながら、順を追って工作を行いました。さすがに発明クラブの子供たちは手慣れているようで、作業を順調に進めていました。

紙飛行機が組み上がった後、接着剤が完全に乾燥するまでの時間を利用して、高木正平先生（電気通信大学客員教授）に「飛行機はなぜ飛べるの？」と題された講演とデモ実験を行っていただきました。講演では、目には見えない空気の流れが「翼」に大きな揚力をもたらすことを実験装置を使ってわかりやすく説明していただきました（図 2）。講演後の質疑応答では、小学生たちばかりでなく、つきそいの親御さんたちからも数多くの質問があり、航空機についての関心の高さを感じました。調布には飛行場や JAXA の研究所があるためかもしれません。

昼食後には電気通信大学の体育館に移動し、作製した紙飛行機による滞空時間のコンテストを行いました。この体育館は天井も高く、背景風のない安定した環境で紙飛行機の性能を試す格好の場所です

* 電気通信大学 知能機械工学専攻、〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

*1 武蔵野ペーパーブレンクラブ



図 2 翼のひみつを解説する高木先生



図 3 人力飛行機に目を見張る参加者

が、今年は学生サークル「U.E.C. wings」の人力飛行機が展示され、コンテストの機運を一段と高めてくれました。例年ですと琵琶湖の大会に参加して壊れてしまうのですが、運よく（悪く？）完全な姿で保管されており、参加者の目を奪っていました。

たつぷりと人力飛行機を見学した後は、いよいよ滞空時間コンテストです。ゴムを利用した発射装置を使って飛行機をできるだけ高い位置まで飛ばし、体育館床到達までの時間の長さを競います（図 4）。コンテストに先立ち、澤田名人から紙飛行機の発射方法と機体調整法の説明がありました。「精確な工作」と並んで「機体調整」が非常に重要であることが強調され、子どもたちは名人や学生ボランティアの指導のもとに調整を行いました。次第に綺麗に旋回飛行をする紙飛行機が増えて、紙飛行機の乱舞する体育館内は熱気に包まれました。今年の滞空時間のチャンピオンは野々村颯真君で、記録は 11.6 秒



図 4 滞空時間コンテストの様子

でした。人力飛行機の展示スペースのために、会場が狭くなっていたせいかもしれませんが、昨年の記録には少し及びませんでした。コンテスト終了後の閉会式では、滞空時間上位 3 名の成績優秀者の表彰と賞品の贈呈が行われ、また、参加者全員に修了証が手渡されました。

「ながれと遊ぼうコンテスト」は 15 年以上にわたって開催されていますが、初期の参加者の中から数名が電気通信大学に進学してくれました。小規模な啓発行事ではありますが、子供たちが流体力学や物作りに魅力を感じてもらえるようになればと思います。2018 年は電気通信大学創立 100 周年と日本流体力学会創立 50 周年が重なりますので、なにか記念となるような催しにできればと思案しております。

末筆になりますが、機体製作をサポートして頂いた目黒会とコンテストを盛り上げてくれた U.E.C. wings の皆さんに感謝いたします。

中学生職場体験受入事業

「中学生職場体験」は、進路指導と総合的な学習の一環として、地域にあるさまざまな事業所や施設などを活用して、勤労体験を通して労働の意義や職業に対する意識、理解を深め、将来の進路についての関心を高めさせること、社会の一員としての常識、マナーを身に付けさせることを目的として実施されているものである。

職場体験事業の受入れについては、地域貢献事業の一つとして位置づけ、平成17年度から地域・産学官連携推進機構地域貢献部門が担当し、平成21年度からは社会連携センターが窓口となって実施している。

平成29年度は、従来の「職場体験」に加え、東京都立三鷹中等教育学校1年生を対象とした「職場見学」を新たに実施した。

6月26日～	6月30日	府中市立府中第九中学校	2年生2名
9月6日～	9月8日	府中市立府中第二中学校	3年生3名
10月4日～	10月5日	東京都立立川国際中等教育学校	4年生3名
11月14日	【職場見学】	東京都立三鷹中等教育学校	1年生3名
11月15日～	11月17日	東京都立三鷹中等教育学校	2年生3名

受入れは、例年どおり総務課、財務課、研究推進課、教務課、学生課、学術情報課、大学生協で行った。高校生については、昨年と同様、東京都立立川国際中等教育学校からの要望もあり、教員の職場体験ということで共通教育部の岡田研究室での受け入れも行った。

また、職場見学では、教務課と水戸研究室で受け入れ、この仕事を選んだ理由など職業に関する質問などに答える形式で行われた。

業務は、職員の指導の下、帳簿のチェック、資料の整理、パンフレット発送作業、本棚の整理整頓、図書のラベル貼り、商品のチェックなどの作業を体験した。生徒達は、真面目に熱心に取り組んでいた。また、研究室での受入れについては、ジョブシャドウイング（子供が興味を持つ分野で働いている社会人に「影」のように密着して行動を共にし、その仕事ぶりや職場の雰囲気を観察する。）というプログラムを取り入れた。

職場体験終了後には、職場体験のまとめや感想が書かれた礼状を生徒全員からいただいた。

- 働くことの大変さや大切さを知りました。
- 様々な仕事が互いを支え合って仕事が成り立つと実感し、仕事の大切さを実感しました。
- 大変な仕事もありましたが、最後までやることができると嬉しい気持ちになりました。
- 自分の知らなかったことにチャレンジできた。

というような感想がありました。

おもちゃの病院

1. 事業開始の概要

おもちゃの病院は、前田隆正氏（元本学監事）をはじめとする本学の卒業生が中心となって、平成15年7月から開催しているもので、単に壊れたおもちゃを修理するのではなく、「子供と一緒にこわれたおもちゃを分解し、一緒におもちゃの動く仕組みを調べ、一緒にそのおもちゃを組み立てて直す。」ことを方針に、毎月、第3土曜日の午後に創立80周年記念会館2階で実施している。

2. 活動状況

平成30年度は、出前を含めると15回開催し、回数は前年度同じであったが、来院者数は、急患も含めると251人、おもちゃの数が307個といずれも前年と比べて1割強の減となった。これは、出前で当日おもちゃを持ってきたものの時間的に処置する時間がなかったため、後日大学の開院日にお持ちくださいとその場での診察はお断りした件数が多かったことからと思われる。

大学では毎月1回開催している。毎回20個～30個のおもちゃが持ち込まれ、その日に修理できないものについては入院扱いとし、日にちをかけて修理をしている。その関係から修理不能のおもちゃの数は321個中30個で少なく、71個は引き続き入院中という状況であった。

出前では、毎年市内小学校を巡回して開催される「こどもあそび博覧会（9月24日開催）」と三鷹市・調布市のごみ処理施設である「ふじみ衛生組合」が開催した「ふじみまつり（11月26日開催）」に引き続き参加した。今年度も「こどもあそび博覧会（YDAS）」は、昨年同様に大勢の方が来院し、受け付けたおもちゃの数は34個であったが、前記したように最後の方は時間がないということでお持ち帰りいただいたものが多数あった。また、「ふじみまつり」は、当日のおもちゃの数が少ないことや、大学での定期的な開催でのおもちゃの数が多いためなどから、当初参加をしない方向でいたが、ふじみ衛生組合から29年度限りとのお願いがあり参加することにした。ここでもやはり、修理に時間がかかるものや修理に要する部品がないものなどについては、大学に持参するようお願いしたケースが何件かあった。

ドクターの先生方は昨年と変化なく、毎回12名～15名が診療に携わり、時には先生方がそれぞれの知識や経験から、重症なものも意見を出し合って完治を目指して治療に取り組んでいる。持ち込まれるおもちゃの増とドクターの高齢化を考慮すると、新たな補充が課題である。

なお、おもちゃの病院と併設しての開催している「こども・ふしぎおもちゃ手作りミュージアム」は、長年担当していた社会連携センター客員教授が平成28年12月に亡くなり、その存続が危ぶまれていたが、助手を勤めていた小城百合子氏が規模を縮小して、平成29年度も継続して実施した。

開催回数	15回（月1回とホームカミングデー、YDAS、ふじみまつりに参加）
来院者数	251人
おもちゃ数	307個
（内 訳）	
修理	206個
修理不能	30個
入院	71個

● 習得・知得

1. 公開講座
2. サイエンスカフェ Chofu
3. 調布市国際交流協会日本語ボランティア講座
4. いなぎ IC カレッジ・プロフェッサー講座
5. 三鷹ネットワーク大学

公開講座等

1. 概要

平成21年4月1日に社会連携センターが設置されたことに伴って、教育担当部署で担っていた公開講座の実施を、本センターが所掌することになった。

また、平成21年度には、翌年度に電気通信学部の改組が予定されていることから、それまで公開講座の専門講座は学科持ち回りで開講していたものを改組に合わせて今後の実施方法等を見直しすべく、社会連携センター運営委員会の下に公開講座検討専門委員会を設置して検討し、新たな方式での講座の開講を平成22年度からスタートさせた。

平成26年5月21日に、センターのこれまでの活動に加えて、本学の特色であるICT技術を活用しての地域貢献活動も見込まれることから、センターの活動を整理し、活動内容毎に担当を明確化し、より集中的、戦略的な活動の展開を図るために、センター内に4つの「室」を設置することとし、その中の「地域学習推進室」が公開講座の検討及び実施を担当することとなった。

2. 平成28年度開講状況

平成28年度は、次の講座を開講した。

なお、従来から実施している（財）調布市文化・コミュニティ振興財団主催の「ちょうふ市内・近隣大学等公開講座」は、講座内容等の見直しが行われ、本学は平成30年度から隔年で担当することとなった。

<本学主催講座>

(1) 春季子どもの走り方教室

講師：共通教育部 教授 岡田 英孝

開催日：

5月9日（火）	15:30～17:00	参加者45名	低学年（飛田給小学校）
5月16日（火）	15:00～15:50	参加者30名	低学年（柏野小学校）
	16:00～16:50	参加者31名	低・高学年（柏野小学校）
5月17日（水）	15:00～15:40	参加者30名	低学年（八雲台小学校）
	16:00～16:40	参加者10名	高学年（八雲台小学校）
5月30日（金）	15:00～15:40	参加者40名	低学年（北ノ台小学校）
	15:40～16:20	参加者40名	低学年（北ノ台小学校）
	16:20～17:00	参加者7名	高学年北ノ台小学校）

(2) 第5回女性のための起業講座

講師：社会連携センター客員教授 前田隆正

有) そーほっと代表取締役 森下ことみ

おでん屋「えがお」代表 石原 郁子

開講日：6月 4日（日）13:00～16:30 参加者：5名

(3) 調布身の丈起業講座

講 師：社会連携センター客員教授 前田隆正

開催日：第19回 10月 7日（土）13:00～16:30 参加者：7名

第20回 2月 3日（土）13:00～16:30 参加者：9名

(4) 「ジャグリング入門」 一頭を鍛える軽運動、やり方と楽しみ方

講 師：情報理工学研究科情報・通信工学専攻 助教 西野順二

開講日：6月8日（木）、15日（木）、22日（木）

19:00～20:30 参加者8名

(5) 子どもと学ぶ科学実験講座 一香り成分を取り出してみよう

講 師：情報理工学研究科先進理工学専攻 助教 牧 昌次郎

サイエンスコーディネーター 金安 渚

開催日：8月1日（火）13:00～16:30 参加者21名

8月9日（水）13:00～16:30 参加者25名

(6) 夏休み 子どもプログラミング・ワークショップ

講 師：教育研究技師部 学術技師 笹倉理子

開催日：8月23日（水）10:30～12:00 参加者10名

13:30～15:00 参加者 8名

(7) 子どもに教えるプログラミング教室

講 師：共通教育部 特任助教 赤澤 紀子

教育研究技師部 学術技師 笹倉 理子

開催日：12月26日（火）9:00～15:00 参加者21名

(8) ボランティア養成講座

第12回「災害時に障害のある子ども達を守るには・・・⑤」

開催日：10月21日（土）10:00～11:30 参加者18名

(9) 子どもに教えるプログラミング教室

講 師：共通教育部 特任助教 赤澤 紀子

教育研究技師部 学術技師 笹倉 理子

開催日：12月26日（火）9:30～15:00 参加者21名

(10)ハイデガー『存在と時間』を読む(第1回)

講 師：共通教育部 准教授 中橋 誠

開催日： 9月30日(土) 参加者17名

10月28日(土) 参加者16名

11月 4日(土) 参加者14名

12月 2日(土) 参加者15名

1月20日(土) 参加者14名

2月10日(土) 参加者12名

3月 3日(土) 参加者12名

(11)UEC コミュニケーションミュージアム特別公開講座 理系の古文書講座

講 師：情報理工学研究科共通教育部 准教授 佐藤賢一

開講日：第1回10月21日(土) 参加者：29名

第2回11月11日(土) 参加者：22名

第3回12月 9日(土) 参加者：24名

第4回 1月27日(土) 参加者：19名

第5回 2月17日(土) 参加者：16名

(12)脳科学ライフサポート研究センター スプリングスクール

実験テーマ1 スパコンで脳を再現する

実験テーマ2 ロボットアームを操ろう

講 師：情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻 准教授 山崎 匡

ライフサポート研究センター 准教授 姜 銀来

開講日 A日程 3月28日(水) 実験テーマ1 参加者：10名

3月29日(木) 実験テーマ2 参加者： 5名

B日程 3月28日(水) 実験テーマ2 参加者： 5名

3月29日(木) 実験テーマ1 参加者：10名

2017 サイエンスカフェChofu

コーヒーを飲みながら科学について語り合う！サイエンスカフェChofu

電気通信大学と調布市の共催によるサイエンスカフェChofuが開催されました。

このイベントは、科学に関する知識を深めるだけでなく、自由な発想で互いのアイデアについて語り合う場であり、講師との距離が近く、科学を身近に感じることができます。

サイエンスカフェChofu 第1回

「ふわふわ」、「さらさら」オノマトペで誰にでも寄り添える人工感性知能へ

- (1) 日 程 平成29年10月14日(土) 14:00~15:30
- (2) 場 所 電気通信大学100周年キャンパス UECアライアンスセンター1階
100周年記念ホール
- (3) 参加者 一般市民の方 20名
- (4) 講師 情報理工学研究科情報学専攻 坂本 真樹 教授
- (5) 概 要

第1回目となる今回は、電気通信大学の坂本真樹教授をお招きし、『「ふわふわ」、「さらさら」オノマトペで誰にでも寄り添える人工感性知能へ』をテーマにお話いただきました。

講演は、人工知能の基本から、これまでの進化など背景、注目の感性AIとその応用まで幅広い内容でした。

10代から70代の男女20名の市民にご参加いただき、飲み物やお菓子を食べながら、まるでカフェにいる感じで参加でき、多くの質問や意見が交わされました。

「ふわふわ」「さらさら」といった日常無意識に使う言葉を切り口にしているせいか、人工知能を身近に感じていただくことができ、大盛況となりました。



坂本教授による講演



リラックスした雰囲気での質問や意見交換が行われました。

サイエンスカフェChofu 第2回

- ① ロボットは何からできている？ ～ロボット要素工学概論～
- ② ロボットの制御 ～賢い動きをどう実現する？

- (1) 日 程 平成29年12月16日(土) 14:00～15:30
- (2) 場 所 電気通信大学100周年キャンパス UECアライアンスセンター1階
100周年記念ホール
- (3) 参加者 一般市民の方 26名
- (4) 講 師 情報理工学研究科機械知能システム学専攻 金森哉吏 准教授
情報理工学研究科機械知能システム学専攻 田中基康 准教授
- (5) 概 要

第2回となる今回は、本学の金森哉吏准教授、田中基康准教授を講師としてお招きし、「ロボットは何からできている？ロボット要素学概論」、「ロボットの制御 賢い動きをどう実現する？」をテーマに盲導犬型ロボットやヘビ型ロボットを例にしながらお話いただきました。

高校生から大人の方まで幅広い年齢層の方が参加され、アットホームな雰囲気でも多くの質問や意見交換がされました。

実際にロボットを動かす際は、参加者だけでなく、会場の周辺にいた方も興味を持ち、ガラス張りの会場から興味津々にのぞく方も複数いらっしゃいました。



ようこそ！サイエンスカフェChofuへ



宮寄社会連携センター長による講師紹介



金森先生の講義



田中先生によるヘビ型ロボット実演



カフェです

サイエンスカフェChofu 第3回

調布市民の健康づくりの在り方を皆さんで考えましょう！

- (1) 日 程 平成30年2月17日(土) 14:00~15:30
- (2) 場 所 電気通信大学100周年キャンパス UECアライアンスセンター1階
100周年記念ホール
- (3) 参加者 一般市民の方、調布市関係者、学生等 28名
- (4) 講師 情報理工学研究科共通教育部、情報理工学域 大河原一憲准教授
- (5) 概 要

第3回となる今回は、本学の大河原一憲准教授を講師としてお招きし、「調布市民の健康づくりの在り方について」意見交換を行うことができました。

大河原准教授から本日のテーマについての主旨説明の後、調布市福祉健康部、調布市社会福祉協議会の方から、調布市の取り組みについて紹介がありました。

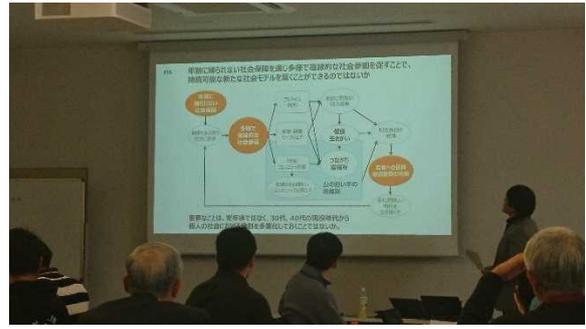
その後、3グループに分かれ、グループディスカッションが行われ、最後に各グループから発表がありました。

【当日のスケジュール】

- 14:00 ~ 14:15 電気通信大学大河原から主旨の説明
- 14:15 ~ 14:25 市の取り組みについて紹介
調布市福祉健康部 健康推進課 小蔦様、鈴木様
高齢者支援室 左近様
調布市社会福祉協議会 北島様
- 14:25 ~ 14:30 休憩
- 14:30 ~ 14:55 グループディスカッション1
今の調布市の環境において、高齢者の立場で「栄養」「社会参加」「運動」の視点から
足りていないこと
困っていること
助かっていること
素晴らしい試み
- 14:55 ~ 15:20 グループディスカッション2
具体的で調布らしいプランを考えてみましょう
- 15:20 ~ 15:30 各班より議論内容の発表と全体のまとめ



ようこそ！サイエンスカフェChofuへ



大河原准教授のテーマの主旨説明



グループディスカッションの様様



各グループからの発表



休憩タイム

調布市国際交流協会日本語ボランティア講座

1. 調布市国際交流協会日本語ボランティア入門講座指導

- [講 師] 池田 裕 (国際教育センター教授)
笠原 (竹田) ゆう子 (国際教育センター教授)
- [期 間] 2017年6月～2017年9月 毎週木曜日 14:00～16:00 (全12回)
- [場 所] 総合研究棟 301 マルチメディアホール、総合研究棟 306 講義室
たづくり 12 階大会議室

[講座概要]

調布市国際交流協会日本語ボランティア希望者 31 名を対象に日本語教育及び日本語教授法の基礎知識についての講義と異文化理解のためのワークショップを行った。

2. 調布市国際交流協会日本語ボランティア勉強会指導

- [講 師] 池田 裕 (国際教育センター教授)
- [期 間] 2017年10月19日、11月2日、16日、30日 (木) 14:00～16:00
- [場 所] 東2号館 B117 室

[講座概要]

調布市国際交流協会所属日本語ボランティア約 21 名を対象に、日本語教授法実習と教材分析を行った。

3. 調布市国際交流協会日本語ボランティア日本語教授法フォローアップ講座指導

- [講 師] 笠原 (竹田) ゆう子 (国際教育センター教授)
- [期 間] 2018年2月1日、8日、15日、22日 (木) 13:00～15:00
- [場 所] 東2号館 B117 室

[講座概要]

調布市国際交流協会所属日本語ボランティア 25 名を対象に、学習者分析、教材分析、教授法に関する講義・ワークショップを行った。

三鷹ネットワーク大学との連携

三鷹ネットワーク大学は、三鷹市民への高度な教育・学習機会の提供と、民学産公の協働による研究・開発の推進、教育・研究機関相互の連携及び地域社会への貢献に資することを目的に、各教育・研究機関と三鷹市が共にこの運営に当たっており、本学は、三鷹市と「三鷹ネットワーク大学に関する基本協定書」を平成17年3月18日に締結し、開設時より参加している。

それに基づき、公開講座、企画運営委員会及び「民学産公」協働研究事業の実施について協力している。

1. 平成29年度公開講座開講状況

平成29年度は、本学からは次の講座を開講した。

- ① 「三鷹身の丈起業塾」第27期
 - ・講師：客員教授 前田 隆正
 - ・開催日：第1回 4月11日（火）、第15回 7月25日（火）
- ② 「三鷹身の丈起業塾」～SOHOベンチャーカレッジ アドバンス講座
 - ・開催日： 8月5日（土）、 8月6日（日）
12月2日（土）、12月3日（土）
- ③ 「誰でもできる！ 起業入門」
 - ・講師：客員教授 前田 隆正
 - ・開催日：7月8日（土）、11月11日（土）、2月24日（土）
- ④ 「三鷹身の丈起業塾」第28期《ビジネスプラン編》～SOHOベンチャーカレッジ
 - ・講師：客員教授 前田 隆正
 - ・開催日：第6回 11月28日（火）
- ⑤ 「LED電球のさきの新しい光電子技術 ～高速省エネの光半導体材料へ～」
 - ・講師：電気通信大学大学院 情報理工学研究科基礎理工学専攻 教授 奥野剛史
 - ・開催日：2月22日（木）19：00～20：30
 - ・参加者：30名



2. 「民学産公」協働研究事業への協力

協働研究事業は、「民学産公」の連携による知的資源を活用した新しい技術やシステムの開発による地域に根ざした産業の支援・創出に寄与することを目的とし、当機構の正会員及び賛助会員が参加しています。

「民学産公」協働研究事業審査委員（宮寄センター長）の活動は、下記のとおりであった。

(1) プレゼンテーション審査・選考 平成28年6月24日（金）

応募団体から提出済みの予算計画書（最大50万円の補助、ただし同額を自己負担）も参考にして質疑応答を行い、いくつかの項目について委員からのポイントを集計して採択団体が決定された。

(2) 中間報告会・交流会 平成28年9月30日（金）

(3) 成果報告会・交流会 平成29年3月 3日（金）

● 協働活動

1. キャンパス美化活動
2. 花植え活動

キャンパス美化活動について

○ 平成29年度の実施状況について

学生サークル「草のおと」が中心となって、企画・運営を行った。

第1回（通算19回）

日 時 平成29年7月13日（木） 16：20～17：30
場 所 学内：東地区のメインストリート、西地区 体育館・五思寮前
学外：正門前東西歩道、西地区甲州街道歩道、中門から南の歩道

第2回（通算20回）

日 時 平成29年11月21日（火） 16：20～17：30
場 所 学内：東地区のメインストリート、西地区 体育館・五思寮前
学外：正門前東西歩道、西地区甲州街道歩道、中門から南の歩道



コミュニケーションパークへ集合



西地区武蔵境通り歩道



中門付近の歩道

花植え事業活動報告書

1. 事業の概要

平成14年9月から12月に、市民を対象とした、まちづくり講座「まち創造塾」が開かれた際、そのまとめとして市民から出された提言の1つに「住みたいまち、花のある調布」というものがあつた。これに対し、この塾に出席していた当時の梶谷誠学長が「是非、大学内に花を植えてほしい」と要望され、実現する運びとなったもので、平成15年6月から、春・秋の2回、花植え作業が行われている。

日常の花壇の手入れは、調布市民ボランティアグループ「調布花・はなの会」の皆さんが行っていただいております。

年2回の花植え作業には、調布花・はなの会」の皆さん及び本学の学生・教職員の他、平成21年度からは、本学と連携協定を締結している調布特別支援学校の生徒が、平成26年度からは本学の保育園どんぐりの子供たちも参加している。

2. 活動状況

平成29年度の花植え事業は、「調布花・はなの会」の指導のもと、学生サークル「草のおと」が中心となり、例年どおり春・秋の2回実施した。

春の花植え作業は、調布花・はなの会、調布市職員、調布特別支援学校、学生・教職員が参加し、コリウス、千日紅、ポーチュラカ、マリーゴールドなど夏から秋に向けて咲く花を植えた。

秋の花植え作業は、調布花・はなの会、調布市職員、調布特別支援学校、学生・教職員などが参加し、冬から春に向けて咲くパンジーとチューリップを植えた。

第1回 日 時 平成29年6月14(水) 10:00～



第2回 日 時 平成29年11月14日(火) 10:00～



花植えの準備



皆さんで花植え

このたび、「調布花・はなの会」では、会員の減員と高齢化により従来のような花の管理が十分にできない状況になってきたため、解散することとなり、今回の花の植替えが最後となりました。

作業終了後、「調布花・はなの会」の皆様の15年という長きにわたる活動への感謝の意を表し、花束の贈呈を行いました。



「調布花・はなの会」の皆さん15年間ありがとうございました

● ボランティア活動支援

1. 活動支援事業
2. ボランティア依頼リスト

ボランティア活動支援事業

1) ボランティア活動マッチングシステム

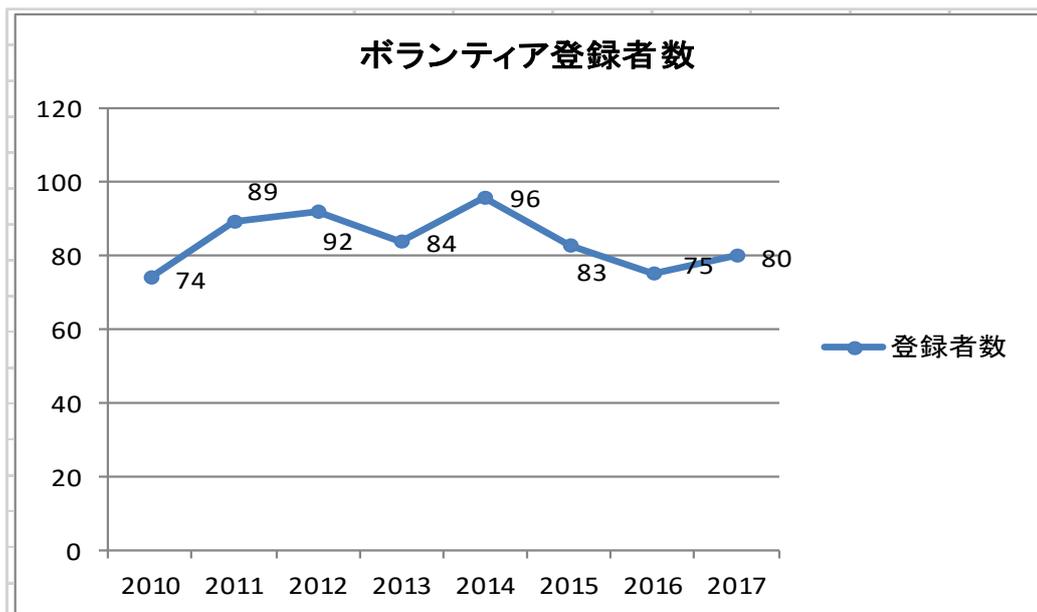
本学では、平成 18 年度より Web によるボランティア活動マッチングシステムを運用している。ボランティア活動を希望する学生がこのシステムに登録すると、本センターに届いたボランティア募集情報がメールリストを通して配信される。実際に活動を行う場合は、学生がボランティア募集元へ直接問い合わせ、申し込み等を行って活動をスタートする。活動終了後は、報告書を提出するよう勧めており、その報告書に基づいて毎年数名の大学表彰対象者を選定している。

また、教員養成課程を履修する学生を支援する教職課程支援室が年々充実し、教職課程に特化したボランティア活動マッチングシステムが数年前から立ち上げられている。現在は、両システムがお互いの長所を生かしつつ併存している。

2) 人数と件数

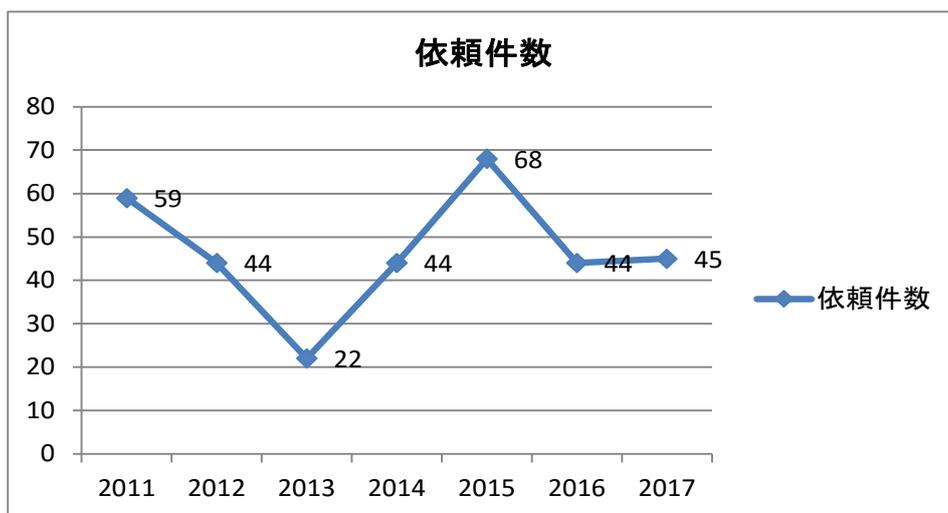
まず、本センターのボランティア活動マッチングシステムにどれだけの学生が登録しているかについて述べたい。近年は概ね 80～90 名前後の学生がボランティアへ参加登録している（図 1）。

図 1 ボランティア登録者数



一方、ボランティア依頼件数は年度によって増減を繰り返している状況ではあるが、平均して年間に 40 件以上の依頼を受けている（図 2）。章末に、平成 28 年度のボランティア依頼内容をまとめている（表 1）。このうち、学生が実際に出向いた件数がいくつあるかは十分に把握できておらず、積年の課題となっている。

図2 ボランティア依頼件数



3) 本年度のボランティア活動の全体動向

本年度も各組織からのチラシ送付を中心に、WEBからの申込み、直接資料の持参を合わせて45件のボランティア依頼を受けた。平成29年度の内訳をみると、全45件のうち分野別では学習支援関連が8件(17.8%)、地域別では大学所在地である調布市に拠点を持つ組織・団体からの依頼が9件(20.0%)となっている。依頼数45件には、活動期間の異なる同一震災復興プロジェクトが複数含まれているため、それを除くと実質的な学習支援ボランティアの割合は前年度と同水準の26%に上る。また、学習支援ボランティアの多くは大学所在地の調布市およびその近隣からの依頼によるもので、地域の大学に対する期待を感じる次第である。

また、ボランティアサークル「草のおと」が活動を本格化させ、キャンパス内の美化活動が中心とした活動を行っている。これまでキャンパス内花壇の整備を担当されていた調布市のサークル「花・はな」の活動が平成29年度をもって終了となったため、その活動も引継いで学内環境の向上に尽力している。

この他に、前述の教職課程支援室を介して多くの学生が調布市内の小中学校にて学習支援活動を行っている。調布中学校、調布特別支援学校では定常的に学習支援ボランティアとして学生が参加している他、科学センターや布田小学校でも毎月活動を行っている。

ボランティア活動においても調布市との連携が強化され、年々地元での活動基盤が整いつつあることは、地域社会に対する貢献活動を志す本センターとしては非常に喜ばしい限りである。今後も学内、学外との連携を深めつつ、地域に根差した活動を続けていく所存である。

4) 来年度以降の登録制度改変について

今年度よりボランティア登録時に学生と面談を行い、活動予定、活動報告の提出を周知するよう運用を改めたが、センターへの活動報告はなく学生の活動状況を把握することが出来なかった。今後のボランティア業務に関する運用を再検討していく必要があると認識している。

表 1：平成 29 年度ボランティア活動依頼

区分 A:教育指導補助 B:野外活動等補助員 C:福祉活動 D:講座・集会 E:その他

	受付日	団体名	依頼内容	依頼区分
1	2017/4/3	一般社団法人ボランティアプラットフォーム(ぼらぷら)	海外ボランティア募集	B
2	2017/4/12	調布市子ども家庭支援センター すこやか	子育て支援事業に関するボランティア募集	C
3	2017/4/12	調布市立第八中学校	学習支援ボランティア募集	A
4	2017/4/24	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 157 陣	B
5	2017/4/24	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 158 陣	B
6	2017/4/24	東京臨床心理士会	養育家庭で生活している子供たちの学習指導、話し相手	A
7	2017/5/11	Gakuvo Style Fund 事務局	Gakuvo Style Fund 応募団体募集	D
8	2017/5/11	伊那谷こども村事務局	サマーキャンプボランティア大募集	B
9	2017/5/25	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 159 陣	B
10	2017/5/25	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 160 陣	B
11	2017/6/1	世田谷区教育委員会事務局 生涯学習・地域学校連携課	世田谷区立幼稚園・小・中学校での学級・学校活動支援、部活動支援ボランティア	A
12	2017/6/1	NPO こげら会・ケアこげら	知的障がい児・者のガイドヘルパー養成講座	C
13	2017/6/15	調布市市民活動支援センター	調布サマーボランティア 2017 参加者募集	D
14	2017/6/15	調布市国際交流協会(CIFA)	子ども日本語教室夏休みボランティア	A
15	2017/6/23	調布市協働推進課	第 4 回調布まち活フェスタ 実行委員募集	D
16	2017/7/14	調布市立第五中学校	夏休み学習教室ボランティア募集	A
17	2017/8/3	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 163 陣	B
18	2017/8/3	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 164 陣	B
19	2017/8/3	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 165 陣	B
20	2017/8/3	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 166 陣	B
21	2017/8/3	調布市教育委員会指導室	学校支援地域本部実施校での教育ボランティア募集	A
22	2017/8/3	環境省	環境省グッドライフアワード応募団体募集	D
23	2017/9/7	独立行政法人国際協力機構(JICA)	青年海外協力隊、短期ボランティア(青年)募集	B
24	2017/9/21	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 166-2 陣	B

	受付日	団体名	依頼内容	依頼区分
25	2017/9/21	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 167 陣	B
26	2017/9/28	調布市教育委員会指導室学校ボランティア担当	学校ボランティア全体会参加者募集	A
27	2017/10/12	調布東山病院	調布東山病院災害訓練ボランティア募集	D
	2017/10/19	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	九州北部豪雨復興支援ボランティア募集(第 1 陣～第 4 陣)	B
28	2017/11/6	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 167-2 陣	B
29	2017/11/6	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 168 陣	B
30	2017/11/6	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 169 陣	B
31	2017/11/6	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 170 陣	B
32	2017/11/6	伊那谷こども村事務局	伊那谷こども村ウィンターキャンプボランティア募集	B
33	2017/12/14	NPO 法人 NICE(日本国際ワークキャンプセンター)	国内、海外で行われる各種ワークキャンプへの参加者募集	B
	2017/12/14	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	Alternative Leadership Program	B
34	2017/12/28	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 171 陣	B
35	2018/1/18	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 172 陣	B
36	2018/1/18	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 173 陣	B
37	2018/1/18	NPO 法人文化学習協同ネットワーク	学習ボランティア募集	A
38	2018/2/1	独立行政法人国際協力機構(JICA)	青年海外協力隊、短期ボランティア(青年)募集	B
39	2018/2/1	特定非営利活動法人 NICE(日本国際ワークキャンプセンター)	海外・国内でのワークキャンプ参加者募集	B
40	2018/2/1	国立青少年教育振興機構	第 6 回学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流会学生ボランティアフォーラム	D
41	2018/2/15	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	インターン募集	D
42	2018/2/15	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 174 陣	B
43	2018/2/15	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 175 陣	B

合 計

A (教育指導補助) : 8 件

B (野外活動等補助員) : 8 件

C (福祉活動) : 22 件

D (講座・集会) : 7 件

E (その他) : 0 件

計 45 件

● トピックス

1. 調布特別支援学校との連携
2. 渋谷区教育委員会との連携
3. 調布市多方面セクターとの連携、協力
4. 調布市共催
「中学生のための大学一日体験入学」

都立調布特別支援学校との連携

情報理工学研究科・情報学専攻
准教授 水戸和幸

1. はじめに

本学に隣接する都立調布特別支援学校と本学は平成 21 年 10 月に教育連携協定を締結している。以降、公開講座、ICT 教材作成支援、余暇活動支援、地域と連携した防災訓練など、様々な教育連携活動を近隣教育機関および地域住民と協力して展開している。

2. 活動組織 ～調布特別支援学校リソース・ネット～

教育連携の内容について検討および運営を行う組織として「調布特別支援学校リソース・ネット」がある。メンバーは、当校の教職員と PTA 役員および卒業生保護者、地域住民や隣接する調布市立第一小学校学区の地域協議会（いっしょうふれあいネットワーク）、本学の社会連携センター運営委員である佐々木啓子教授（教職課程部会）、奥浩昭教授（総合文化部会）、水戸和幸（情報学専攻）および学生である。1 ヶ月に 1 回の委員会を開催し、特別支援学校および特別支援教育に関する啓発活動（公開講座）、防災活動、余暇活動支援を中心とした課題への対応と事業を実施している。

3. 公開講座（啓発活動）

「ボランティア養成講座」の名称で調布特別支援学校との共催により、平成 22 年より年 1 ～2 回実施している。

【テーマ】 第 12 回ボランティア養成講座

大災害！？そのときあなたはどうする？ゲームで考える「究極の決断」
～防災カードゲーム「クロスロード」体験とディスカッション～

【日 時】平成 29 年 10 月 21 日（土）13:30～16:30

【会 場】電気通信大学 80 周年記念会館 3 階

【内 容】防災カードゲーム「クロスロード」をプレイしながら災害時における「判断」を考え、話し、聞き、自分の中の防災意識を揺り起こしていく。

【参加者】18 名



公開講座の様子



案内ポスター

4. 余暇活動支援

当校の児童・生徒の余暇活動の充実を図るために学習やスポーツ・文化活動等の体験活動を年4回実施している。本活動は、東京都の「東京都立特別支援学校放課後子供教室推進事業」の助成を受けており、運営企画等は調布特別支援学校リソース・ネットが行っている。各イベントにおいて、本学の学生サークル、地域のボランティア団体の協力を得ており、当校の児童・生徒と本学の学生および地域の方々が交流できる場ともなっている。各イベントの内容は次の通りである。

4.1. 世界から、こんにちは（国際交流）

日時：平成29年7月8日（土）13:30～15:00

場所：電気通信大学・100周年記念ホール

参加人数：11名

内容：本学留学生4名による母国の紹介、遊びや踊りを通じて様々な国の文化を知る。

協力団体：電気通信大学 ICES（モンゴル、インドネシア、スリランカ、カンボジアの留学生各1名）、電気通信大学実践的コミュニケーション教育推進室



「世界から、こんにちは」の様子（各国の紹介）

4.2. ダンス&ジャグリング

日時：平成 29 年 9 月 6 日（土）13:30～15:00

場所：都立調布特別支援学校・体育館

参加人数：26 名

内容：子ども達とボランティアが一緒になってジャグリング鑑賞、体操、ダンス、ゲームなどを楽しむ。

協力団体：電気通信大学ジャグリングサークル・Passage、レインボーズ（調布特別支援学校在校・卒業保護者のグループ）、電気通信大学情報学専攻の学生

4.3. 学園祭見学ツアー（買い物体験）

日時：平成 29 年 11 月 25 日（土）11:00～13:00

場所：電気通信大学構内

参加人数：14 名

内容： サポーター（ボランティア）と児童・生徒が一緒になり、電気通信大学学園祭（調布祭）での買い物体験や催し物を楽しむ。

協力団体：実践的コミュニケーション教育推進室

4.4. バレンタイン・コンサート（音楽活動）

日時：平成 30 年 2 月 10 日（土）13:30～15:30

場所：都立調布特別支援学校・体育館

参加人数：81 名

内容：地域や学校の先生方による音楽グループの様々なジャンルの音楽を楽しむ。

協力団体：アンサンブル・ヴィーノ（調布特別支援学校保護者）、ハーモニーパーク（調布特別支援学校卒業生保護者）、リトルステップス（調布特別支援学校保護者）、チャッピーズ（調布特別支援学校教諭&本学学生）



バレンタイン・コンサートの様子

5. ICT 教材作成支援

調布特別支援学校の教員と本学の学生が協力して作成する ICT 教材作成であり、平成 23 年度から継続して実施されている。当校の教員が授業で使用したい ICT 教材のアイデアとイメージを提供し、本学学生が技術力を駆使して実現化する協同作業である。本年度は、情報学専攻および教職課程の学生の協力により、10 件の教材を作成した。作成された ICT 教材は、同校の校内ネットワークに保管され、学校全体で活用できるようになっている。



教員と学生による打ち合わせ



ICT 教材発表会

渋谷区教育委員会「こども科学センター ハチラボ」との連携事業について

1. 夏休みワークショップへの企画

【企画名 紙ひこうきの製作 講座】

- (1) 日 程 平成29年8月11日(金) 10:00~15:00
- (2) 場 所 渋谷区こども科学センター ハチラボ、アリーナ
- (3) 参加者 小学校高学年生 9名
- (4) 講 師 情報理工学研究科機械知能システム学専攻 宮寄武 教授
武蔵野ペーパープレインクラブ会長 澤田拓 名人
社会連携センター 高木正平 客員教授
情報理工学部・情報理工学研究科 学生5名
- (5) 活動テーマ 紙飛行機の作製とデモ実験を通して、飛行機が飛ぶ原理とメカニズムを理解する。
- (6) 概 要
以下のように、午前と午後の2部に分けて活動した。
10時~11時20分: 紙飛行機作製 (ハチラボ) 澤田名人指導 (写真1)
11時30分~12時10分: 講演「飛行機はなぜ飛ぶか」 高木客員教授 (写真2)
12時10分~13時: 昼食
13時~14時40分: 滞空時間コンテスト (アリーナ) 最長滞空時間 9.75 秒 (写真3)
14時40分~14時50分: 質疑応答と閉会式
- (7) その他
社会連携センター吉川光子客員教授の参加



写真1：紙飛行機作製



写真2：飛行機はなぜ飛ぶか (デモ実験)



写真 3 : 滞空時間コンテスト

【企画名 磁石で動く謎の液体 講座】

- (1) 日 程 平成29年8月20日(日) 14:00~16:00
(2) 場 所 渋谷区こども科学センター ハチラボ
(3) 参加者 17人(小学生11人、中学生6人)
(4) 講 師 電気通信大学共通教育部自然科学部会 小林義男 教授
中村 仁 准教授

(5) 活動テーマ 通常は高温下での酸化によって生成される黒錆の微粒子を、化学反応によって作製する。さらに界面活性剤と混合し磁性流体の作製を行う。この流体の不思議な特性について体験する。

(6) 概 要

以下のスケジュールで実施した。

13時 準備・打合せ

13時30分~14時 パワーポイントを用いた講義(主として中村)

14時~15時30分 磁性流体の作製・観察(主として小林)

15時30分~16時 市販の磁性流体との比較

一人一人、自分のビーカーで実験を行なった。非常にきれいなスパイク現象を観察できた人から、磁性コロイドに近いものまで様々だった。同じように作製したように見えて、必ずしも同じ結果とはならないこと、それを失敗と考えるか、別の現象と考えるかなど、研究に繋がる経験をさせることが出来た。



2. ハチラボ科学クラブへの企画

【企画名 発光の科学】

(1) 日 程 前期 平成29年6月10日(土) 14:00~16:00

後期 平成30年1月20日(土) 14:00~16:00

(2) 場 所 渋谷区こども科学センター ハチラボ

(3) 参 加 者 小学校5・6年生 12名

(4) 講 師 情報理工学研究科基礎理工学専攻 牧 昌次郎 助教

情報理工学部・情報理工学研究科 学生7名

(5) 活動テーマ

酵素で発光するホタルの原理を試験管で再現して、生体機能を人間が人工的に創ることができるかどうか確かめてみる。

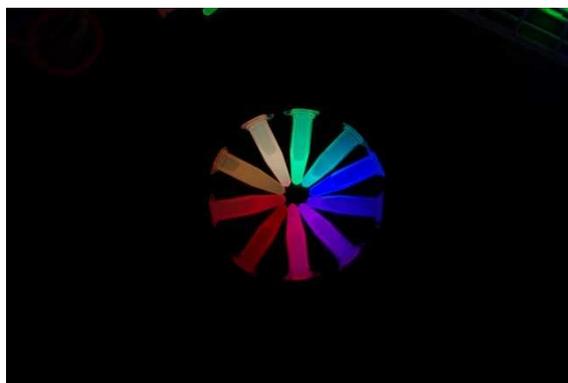
(6) 概 要

発光の実験として、化学発光の実験を行った。発光液を混合することで化学反応による発光を実体験した。

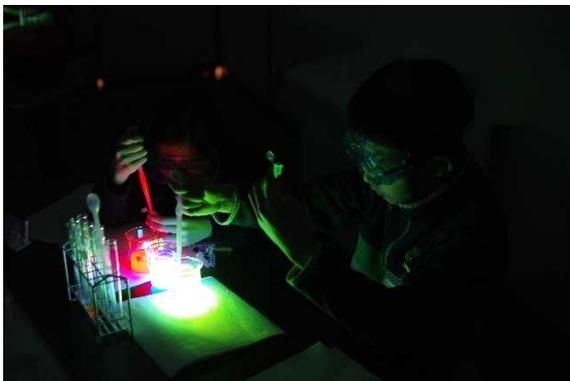
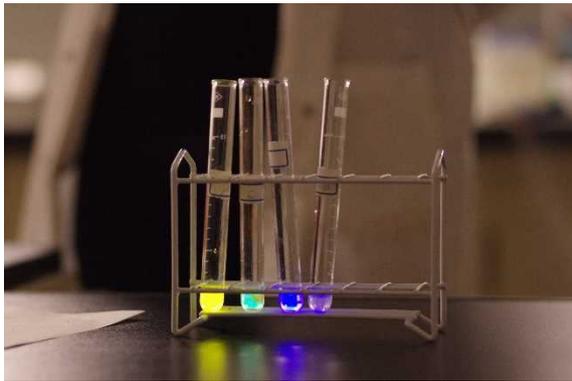
当研究室の研究員と大学院生が各班に1名付き、危険な試薬や複雑な手順を丁寧に指導することで、高度な実験も安全かつ正確に遂行できた。

質問にもその場で対応し、他の理科実験教室とはレベル・内容・指導の質で差別化できた。

○ 前期の実験の様子



○ 後期の実験の様子



調布市・東京都 教育関連セクターとの連携

共通教育部 教授 佐々木啓子

1. 調布市科学センター講座 : 電通大生ボランティア

教職課程支援室と機械知能システム工学専攻の研究室が中心となって運営する調布市教育委員会の科学講座である。調布市内の小学生高学年生を対象として、1年間に14回開催される科学講座の中で、毎年12月の講座は、機械知能システム工学専攻の大学院生の協力のもとで、本学教職課程部会が担当して実施している。学生約20名をボランティアとして派遣している。この取り組みは平成23年度より始め、今年度で7回目を迎えた。



大学院生によるロボット製作の説明



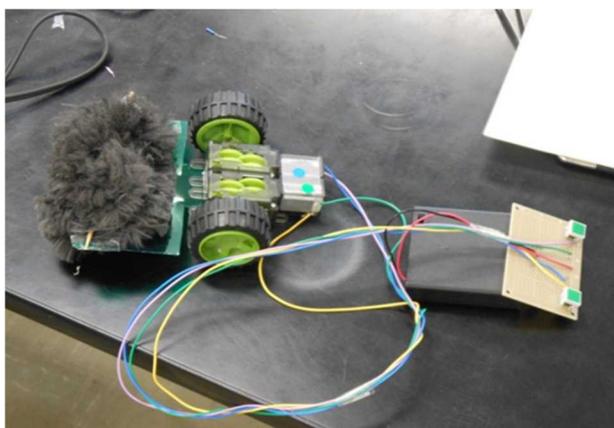
個別にテーブルでサポートする

制作したのは「床ふきロボットワイパー君」で、機械知能システム工学専攻の大学院生グループが、本講座のために制作したオリジナルである。ハンダごてを使う子どもたちを学生たちがサポートする。今年度は「ワイパー君7号」となった。今年度は、参加した小学生全員が床

拭きロボットを完成させて持ち帰ることを目標とした。

各テーブル三人の児童に一人の学生がつくよう、多数の学生ボランティアが参加し、一人一人の子どもに対して十分な支援ができていた。事後の児童たちの感想からこの講座が人気講座であることが伺われた。学生とともにロボットを作成することは、児童たちにとって良い教育効果があると高く評価されている。また、参加児童やその保護者からも好評で大勢の子どもたちからの感想文が寄せられる。

当日は、科学講座の開始時に講座申し込みをした調布市内の児童 48 名が参加し、学生たちが準備した電子工作の部品や工具を使って、全員がロボットを完成させることができた。ロボット作成の手順は、知能機械工学専攻の大学院生が作成した床ふきロボットの作成マニュアルを見ながら、基板へのハンダ付けを学生ボランティアの補助のもとで全児童が挑戦した。ハンダづけは初めてという児童がほとんどだが、1 テーブル 3 名の児童に学生 1 名が付いて丁寧に指導をしている。完成後、児童らは自らの手で実際にロボットを動かし歓声を上げていた。



床拭きロボット「ワイパー君7号」



参加したボランティアの学生たち

2. 東京都立高等学校との連携

(1) 東京都立町田高等学校

高大連携の一貫として、東京都立町田高等学校にて平成28年度より町田高等学校「理数教育支援員」として、自主学习形式による「JAVA」「HTML」スキルアップ講座を担当した。プログラミングがわからない生徒に対するきめ細かいサポートを丁寧に行い、情報分野プログラミング教育の普及に貢献した。特に平成29年度については、同校生徒の希望に応じ、丸二日間にわたる「C言語講座」を企画・立案および運営を行い、単なる指導にとどまらず、教材の吟味や選定、同校担当者との連絡調整など、講座の成功に大きく寄与した。また、直接のサポートにおいても、生徒からは教え方がとても丁寧でわかりやすく、ありがたかった、など好評を得ており、同校の情報教育推進に大きく貢献した。



プログラミングの説明をする本学
大学院生と講座参加の高校生





高校生たちに丁寧に説明をして指導する本学の大学院生たち



(2) 東京都立神代高等学校

高大連携の一貫として、東京都立神代高等学校にて放課後、本学の大学院生がプログラミング教室の講師を務めた。教育用プログラミング言語ドリトルと processing を用いたプログラミングの基礎をコンピューター部員に教えた。また、scratch を用いたゲーム制作を夏期講習で行った際には、講師アシスタントとして活躍した。

プログラミングの指導だけでなく、文化祭発表へのアドバイスやお手伝い、さらにはコンピューター部員の進路相談など、積極的に生徒と関わり、高大連携の枠を越えて、子供たちの成長に大きく貢献できた。

4. 調布市の諸団体と連携して活動

(1) 遊ing

調布市教育委員会社会教育課が募集する市内の特別支援学級の児童・生徒を対象とする土曜日の行事「遊ing」は月1回、年間10回開催される。土曜日の午後に子どもの料理教室や映画鑑賞会、水遊び、工作など、危険がないように見守りながら一緒に楽しむ企画

である。社会連携センターのボランティア情報に掲載されているが、教職課程支援室のメーリングリストでも情報を配信して参加を呼びかけている。

(2) 調布市立中学校の学習支援ボランティア

さらには教職の学生を中心として、調布市教育委員会（教育会館窓口）が募集する中学校、高等学校の学習補助ボランティアには個々に応募して参加している。調布第七中学校や調布中学校の補習授業に、学習支援ボランティアとして教職の学生たちが参加している

。

調布市との相互友好協力協定締結大学連携事業

「中学生のための大学一日体験入学」

1. 事業目的

電気通信大学と調布市では、平成15年に相互友好協力協定を締結しました。その後、調布市では7大学と協定を締結し、様々な分野で連携事業を展開しています。昨年度、調布市が市制60周年を迎えたことで、改めて大学との協力関係をより一層強固なものにするるとともに、これから進路を決めていく中学生に対し進路を考えるきっかけとして実施した「中学生のための大学一日体験入学」を今年度も実施した。

2. 事業概要（電気通信大学の一日体験入学）

- (1) 日 時 平成29年11月26日（日）9：30～11：00
- (2) 場 所 創立80周年記念会館 3階フォーラム
- (3) 参加状況 申込者数 44人（中学生27人(男20、女7)、保護者17人)
参加者数 31人（中学生18人(男13、女5)、保護者13人)

(4) 概 略

- ① 開校式 挨拶 電気通信大学社会連携センター長 宮崎 武
調布市生涯学習交流推進課長 半澤 清美
- ② 大学紹介（ビデオ）
- ③ 模擬講義

「摩擦のひみつ ～究極の省エネの切り札～

みなさんは原子や分子に働く摩擦を想像出来ますか？

私達は、分子のボールを転がして摩擦を小さくしたり、分子のテープを貼り付けて摩擦を大きくする研究を進めています。

本講義では摩擦現象によって多額の経済損失が生じるため、省エネルギー問題を解決する鍵になる事をお話しました。

そして、最先端のナノテクノロジーで原子・分子の摩擦を制御して、究極の省エネルギーを目指す話を紹介します。普段勉強している理科の背後に広がる広大で深い科学と技術の世界を感じ取りました。

【キーワード】摩擦、分子、省エネルギー、ナノテクノロジー

講師：情報理工学域Ⅲ類 物理工学プログラム 佐々木成朗教授



- ④ 閉校式
- ⑤ 調布祭、オープンキャンパス 自由参加